

ちゃんと知ってる？

薬の飲み方



頭痛薬、腹痛の薬、花粉症の薬…、薬は手軽に飲んで悩ましい症状を改善してくれる便利なものです。けれど、正しく飲まないとな効果が現れないだけでなく、思わぬ副作用が出る危険なものでもあります。クイズを通して、正しい薬の飲み方を学びましょう。

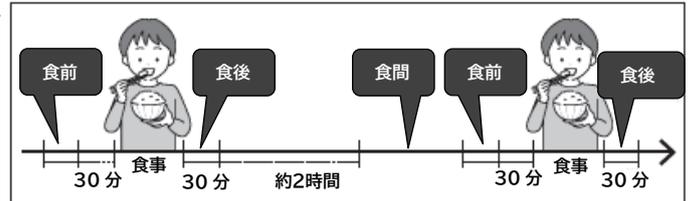
Q1 「食後」に飲む薬は、食事の約30分後までに飲むとよい



A. **O** 「食後」の場合は、食事の約30分後までが最適なタイミング

どの薬も、「食前」「食後」「食間」など飲むタイミングが決まっています。これは胃の状態に合わせて、できるだけ体に負担をかけずに効果を発揮するためです。

最も多いのは「食後」に飲む薬。薬は胃に刺激を与えるものも多いため、胃の中に食べ物がある状態で飲むことで、胃にかかる負担を減らすことができます。



食前…食事の約30分前までに飲む
胃に食べ物がない状態で効果を発揮する

食間…食事の最中ではなく、食事と食事の間
食後2時間程度が目安



Q2 飲み忘れた場合、次のタイミングで2回分飲んだほうがよい



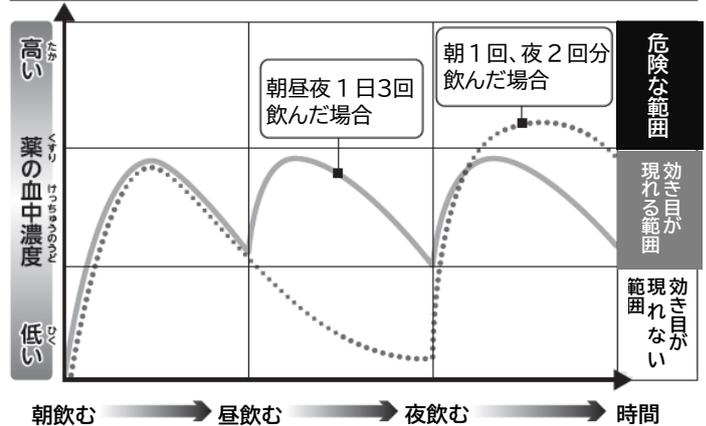
A. **X** 副作用の危険があるため、一度に飲む量は必ず1回分に

薬は吸収された後、血液中に溶けて全身を巡ります。この血液中に溶けている薬の濃度を「血中濃度」と言います。

どの薬も、血中濃度が一定に達した時に効果を発揮します。薬の飲む量やタイミングは、この血中濃度をもとに決められています。一度に2回分飲むと、血中濃度が高くなりすぎて副作用が出やすくなり、大変危険です。

飲み忘れた場合は1回分飛ばし、次のタイミングに1回分飲みましょう。

薬の血中濃度と薬の効果 (1日3回飲む薬の場合)



Q3 薬はお茶や牛乳、ジュースなど、何で飲んでもよい



A. **X** 薬の吸収が遅れたり効果が強まったりする恐れがあります
水かぬるま湯で飲むように

薬をお茶や牛乳、ジュースなどで飲むと、飲み物の成分と薬の相互作用により薬が吸収されにくくなり、効果が強くなりすぎて副作用が出たりすることがあります。コップ1杯程度の水かぬるま湯で飲みましょう。



お茶やコーヒー (カフェイン)	かぜ薬などのカフェインを含む薬と一緒に飲むと、眠れなくなったり、頭痛が現れることがある。
牛乳	胃の中のpHが変わり、腸で溶ける薬(便秘薬など)が胃で溶け、胃痛や吐き気が起こることもある。カルシウムと結合して効果が弱まる薬もある。
ジュース	胃の中のpHが変わり、薬が吸収されにくくなったり、効果が弱まったりする場合がある。逆にグレープフルーツは薬の中の血中濃度を高め、効果を強めてしまうことがある。

薬の「量」や「飲むタイミング」にはちゃんと意味があります。添付文書にも目を通し、必ず決められた容量・用法で飲みましょう!